

(令和3年8月試験研究業務月報)

試験研究課題名：強樹勢台木の接ぎ木による賀茂ナス果実の高品質・高付加価値化技術の確立

研究

## 賀茂ナスのミスト散水試験を開始

賀茂ナスは近年、夏期の高温によるツヤなし果の発生が問題となっています。当センターでは、その対策の一つとしてミスト散水の効果を検討しています。これは散水ノズルを用いて発生させた細かい霧（ミスト）をナスの株の上部から断続的に散布するもので、果実表面の温度を下げるのが期待できます。

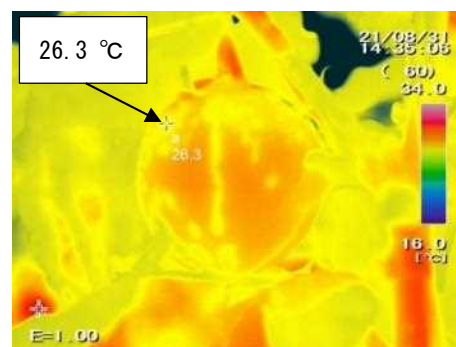
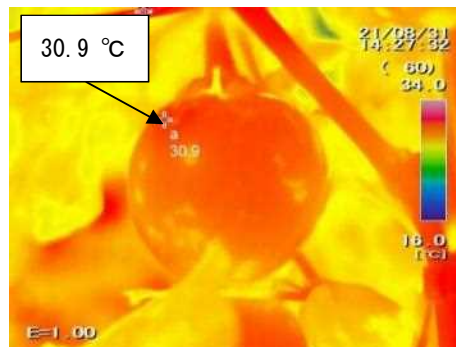
7月中旬に試験を開始し、8月下旬の晴天日にサーモグラフィーカメラ<sup>※1</sup>で散水前後の果実を撮影したところ、散水直後の果実は散水前と比べて表面温度が4℃程度低下していることが確認できました。

今後は9月上旬までミスト散水を行い、散水の有無によるツヤの程度の違いを調査する予定です。

※1 サーモグラフィーカメラ：物体の温度を視覚的に見ることができるカメラ



ミスト散水の様子



ミスト散水前（上）と散水後（下）の果実の温度分布

(令和3年8月試験研究業務月報)

試験研究課題：新農薬・資材効果確認試験

(けい酸加里による「京の輝き」の収量・品質の向上技術の開発)

研 究

## 水稻の根系の活性を調査

当所では、「京の輝き」のさらなる生産振興を図るため、けい酸加里による高温登熟耐性の向上効果を確認する試験を実施しています。

「良く穫れるイネは、朝、葉先につく水滴が大きい」という経験則から、根の働きに着目し、根系の活性に係る調査を行いました。

8月19、20日に、葉先からの溢泌液量と稲株の切断面からの出液量を測る方法で、根による能動的な吸水量を測定しました。

今後は、収量、品質調査の結果と合わせて、処理による登熟向上効果を評価・検討することとしています。



止め葉（穂直下の葉）から夜間に排出される溢泌液を試験管に回収し、その量を測定する。



稲株を地上10cmで切断し、60分間に茎からの出液を脱脂綿に回収し、その量を測定する。

(令和3年8月試験研究業務月報)

試験研究課題：新品種育成に関する試験(1)系統比較第12群

研 究

## 宇治茶の新品種を育成

他産地との差別化を図るため、「宇治茶の新品種」は、生産者や茶商工業者からつねに求められています。そこで当所では、京都の優良品種を交配<sup>※1</sup>親として、収量性や品質に優れる茶の品種の開発に取り組んでいます。

現在、てん茶用品種の育成を目指して、収量の測定や一番茶を製茶した試料茶の官能検査<sup>※2</sup>などを行っています。今年の一番茶について13の系統<sup>※3</sup>を調査したところ、収量が多く、品質にも優れるものが1系統ありました。

今後は、生育状況や均整度の調査などを含め、同様の調査の年次反復を行い、品種登録を目指します。

※1 交配：種子を得るために、雌しべに花粉を受粉させること

※2 官能検査：視覚や味覚などの感覚を使って、対象の優劣などを検査する方法

※3 系統：種子から育てた茶樹を挿し木で増殖したもので、品種候補となるもの



浸出した茶の味を検査しているところ  
(審査中はマスクをはずしていません)

農林センター（茶業研究所）

(令和3年8月試験研究業務月報)

試験研究課題：キュウリモザイク病の完全防除に向けたパパイヤ輪点ウイルス（PRSV）ワクチンの開発

研 究

## キュウリのウイルス発生実態を調査

キュウリ栽培では、アブラムシ類が媒介する4種類のウイルスによる被害が全国的に問題となっており、京都府内でもこれらのウイルスの発生が確認されています。そこで、当センターでは今年度、中丹・南丹・京都乙訓・山城地域のキュウリほ場約50カ所において、ウイルスの発生実態調査を行っています。8月までの調査の結果、地域によって発生するウイルス種や発生程度に違いがあることが明らかになりました。

今後も引き続き調査を継続することに加えて、新たなワクチンの開発に向けた弱毒ウイルス\*の作出、ウイルス同士の関係性の解明に取り組み、新たな防除体系の確立を目指します。

※ 弱毒ウイルス…ウイルス病の防除として用いられる、毒性の弱いウイルス。植物に予め接種しておくことで、毒性の強いウイルスに感染することを防ぐ。



農家ほ場でウイルスの発生を調査



ウイルスの症状

## 親子で家畜とのふれあいを体験

当センターでは、毎年、夏休みの期間中に、親子で畜産に親しむ「夏休み親子畜産ふれあい広場」を開催しています。去年は新型コロナウイルス感染症のため中止しましたが、今年は感染症対策を講じながら8月4日（水）に開催し、7組19名の親子が、乳しぼりや子牛のほ乳、聴診、エサやり、作業機械乗車などを体験しました。

参加した子供たちから「子牛がかわいかった」「牛の心臓の音と自分の心臓の音を比べられて良かった」「トラクターは大きくて迫力があった」などの感想が聞かれ、暑い中でも元気に牛とふれあい、畜産の仕事を経験してもらった良い機会となりました。



牛の乳しぼり体験



ラッピングマシン乗車体験



エサやり体験



聴診体験

(令和3年8月試験研究業務月報)

試験研究課題：「魚病対策指導事業」

情報

## 養殖カンパチの出荷前寄生虫検査

伊根湾及び栗田湾では春先に1kg及び3kgサイズのカンパチを他県から購入し一定期間育てた後、夏季から冬季にかけて市場へ出荷します。

魚には様々な寄生虫がおり、時に喫食した人への健康被害や商品価値の低下を及ぼすことがあります。カンパチでは主に春から夏にかけてブリヒモセンチュウという大型で紐状の寄生虫が筋肉内にしばしば寄生します。この寄生虫は人体には無害ですが、見栄えが悪く商品価値を低下させるため、漁業者にとって悩みの種となっています。

そこで当センターでは、高品質で安心・安全な養殖魚を消費者に提供できるよう養殖魚の出荷前に寄生虫の検査を行っています。

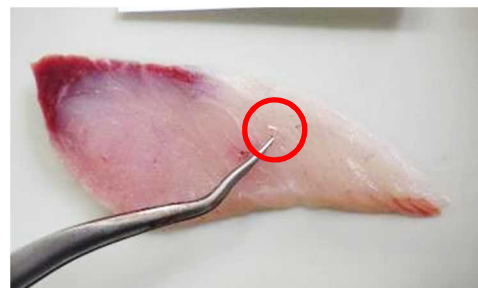
8月に出荷予定のカンパチについて身を薄くスライスし筋肉中の寄生虫の有無を肉眼で検査をしたところ、ブリヒモセンチュウとは異なる寄生虫が少量見つけられました。この寄生虫は人体に害を為すものではなく、少量であれば商品価値の低下に繋がるものではありません。

冬季から出荷を予定している養殖ブリについても順次検査を行い、養殖魚の安心・安全を確保します。



寄生虫検査の検体

カンパチ：尾叉長 55.5cm, 体重 3.0kg



今回の検体で確認された寄生虫

※人体への影響はない